

音楽科学習指導案

題材名「音の特徴や重なりを感じてリズムアンサンブルをつくろう」

教材名 Let's Create! (中学生の音楽2・3年下 教育芸術社)

〔学指要領：A 表現(3)ア、イ(イ)、ウ、共通事項(1)ア〕

第3学年 指導者 安藤 千雨

I 題材の構想

1 題材観

本題材で取り扱う中学校学習指導要領（平成29年告示）解説音楽編の内容は以下のとおりである。

第2学年及び第3学年【A表現】

(3) 創作の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、まとまりのある創作表現を創意工夫すること。

イ 次の(ア)及び(イ)について、表したいイメージと関わらせて理解すること。

(イ) 音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴

ウ 創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けること。

〔共通事項〕(1) ア・・・音色、リズム、テクスチャ、構成

本題材では、ボディーパーカッションを主軸とするリズムアンサンブルの創作活動に取り組む。この教材は、特別な楽器を必要とせず、身体を用いるため、演奏技能に左右されにくい。そのため、音色やテクスチャ、構成といった音楽を形づくっている要素とその働きの視点で音楽を捉え、創意工夫に取り組むことができる。

生徒は音の特徴や重なりを感じながら多様な音素材を探索し、響きの変化を感覚的に捉えるとともに、それらを表したいイメージと関連付けて実感を伴った理解へとつなげていく。リズムアンサンブルをつくる過程では、音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴を工夫し、自らの価値判断に基づき音を選択・組み合わせる。この試行錯誤の過程を通して、表したい音楽表現についての思いや意図を明確にし、まとまりのある創作表現を具現化していく。

他者と協働しながら音楽表現を生み出す実践的な活動を通じ、表現に必要な技能を習得させ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力の育成を目指す。

2 研究との関わり

本題材は、「子供を主語にした学びの実現を目指して」という研究主題のもと、教師の役割として設定した副主題「子供に学びを委ねる上で、学びの質を高める学習環境の工夫・教師の関わり」を意識して授業を構想した。特に、研究で示した「見方・考え方」「協働的な学び」「価値付け・方向付け」の三つの視点を授業づくりの柱として位置付け、子供が主体的に学びを深めていく姿の実現を目指している。

これまでの授業において、教師主導になりがちであった学びの在り方を見直し、生徒が音楽的な見方・考え方を自在に働かせ、試行錯誤しながら学びを深めていく姿の育成を目標とした。

そこで本実践では、創作手順や学習場所、学習の進め方を生徒が選択できるような学習環境を構成する。また、生徒の学びを見取り、その上でゆさぶりや問い返しといった言葉掛けを意図的に行いながら価値付け・方向付けを行うことで、生徒が学びを深めていくことを重視する。

さらに、学びを委ねた上でも題材のねらいが達成されているか、資質・能力の育成につながっているかという視点で実践を捉えるとともに、本実践で得た教師の気づきを今後の授業改善や他題材へ生かしていくことで、今後の音楽科教育の改善につなげていく。

3 題材の目標及び生徒の実態

	目 標	生徒の実態
知識及び技能	・音素材の特徴及び音の重なり方などの構成上の特徴について理解するとともに、創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの	・簡単なリズム創作や旋律づくりは経験しているが、「音の重なり方」や「対照」といった構成上の特徴を創意工夫に生かすための知識が十分に定着しているとは言えない。

	技能を身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> 自分のイメージにあった音を選択することはできるが、思いついたリズムを、正確に拍に合わせて音を選択したり、重ねたりするには、繰り返し練習と個別の支援が必要である。
思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> 音色、リズム、テクスチャ、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、まとまりのある創作表現を創意工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素の働きが生み出す特質や雰囲気は感受しているが、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるという音楽的な見方・考え方を働かせ、思考を深めることに課題がある。 音楽を形づくっている要素の働きを意識し、試行錯誤しながら、思いや意図を明確にし、創作表現を具現化する経験が不足している。
学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> 音素材の特徴及び音の重なり方などの構成上の特徴に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組むとともに、音楽に対する感性を豊かにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 思いや意図をもって創作活動に意欲手に取り組む生徒は多いが、粘り強い取組には個人差が見られる。 表現の過程や結果を自己評価し、自らの変容を自覚したり、次の学びにつなげたりする振り返りの力が不十分な生徒もいる。

4 評価規準

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ①音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴について理解している。 ②創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けている。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ①音色、リズム、テクスチャ、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、まとまりのある創作表現を創意工夫している。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ①音素材の特徴及び音の重なり方などの構成上の特徴に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。

5 指導及び評価の計画（全3時間）

	時間	□学習活動	知 思 態			◆評価項目<方法（観点）>
						○指導に生かす評価、●評定に用いる評価
つかむ	1	<input type="checkbox"/> 教師の説明や演奏を聴いたり、体験したりして、題材の学習課題を把握し、学習の見通しをもつ。 <input type="checkbox"/> 学習タスクを参考に、創作手順をペアまたはグループで計画しながら、まとまりのあるリズムアンサンブルを創作する。			①	◇音素材の特徴及び音の重なり方などの構成上の特徴に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。<観察・ワークシート（態①）>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>[題材の課題等] 音の特徴や重なりを感じてリズムアンサンブルをつくらう ～イメージを音で伝える～</p> </div>						
					↓	

追求する	2	□「音の重ね方」と「音色の工夫」に着目しながら、まとまりのあるリズムアンサンブルを創作する。	①		◆音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴について理解している。 ＜観察・ワークシート（知①）＞
まとめる	3	□「音の重ね方」と「音色の工夫」に着目しながら、試行ブースを活用して、まとまりのあるリズムアンサンブルへと仕上げる。	②	① ①	◆音色、リズム、テクスチャ、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、まとまりのある創作表現を創意工夫している。＜観察・ワークシート（思①）＞ ◇創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けている。＜観察・演奏（知②）＞

II 第1時の学習

1 ねらい 題材全体の学習の見通しをもち、ペアまたはグループで学習計画を立て、創作を試行する活動を通して、楽しみながら主体的・協働的に創作活動に取り組めるようにする。

2 展開

主な学習活動 予想される児童(生徒)の反応〔S〕	◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ◆評価項目（観点）
1 題材の学習課題を把握し、学習の見通しをもった上で、本時のめあてをつかむ。 (導入 10分)	◎生徒が主体的に学びに向かえるように、この授業で「自分で選択し、実行する力」と「音でイメージを伝える力」を身に付けることが重要であることを伝える。 ◎創作の手順を段階化し、取り組む順序を生徒に委ねる複線型の学習構造とする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <めあて> 音の特徴や重なりを感じてリズムアンサンブルをつくろう ～イメージを音で伝える～ </div>	
S : どんな手順で創作しようかな。 S : どんなイメージにしようかな。	◎学習課題の見通しをもてるように、ワークシートの完成例を提示する。
2 学習タスクを参考に、創作手順を計画しながら、まとまりのあるリズムアンサンブルを創作する。 (展開①25分) S : 場面が大きく変化するイメージにしたいな。 S : リズムパターンはどのようにつくるのかな。	◎生徒が「どのように表現を工夫するとよいのか」を捉えながら学習を進められるように、音楽を形づくっている要素ごとに創作の手順を整理した学習タスクを提示する。 ○リズムの創作で停滞している生徒には、教師が用意した複数の簡単なリズムパターンから選択させ、工夫を加えながら創作を進められるようにする。 ◎生徒の学びが次の学びへとつながるよう、学習タスクの内容を生徒の様子に応じて調整し、学習タスクが学習の視点・条件・ヒントとなるようにする。

<p>〈学習タスク〉</p> <p>①【イメージ】 4コマのストーリーや四つのシーンを作ってみる</p> <p>②【リズム】 基本のリズムパターンを二つ創作する</p> <p>③以下のタスクを自分のペースで選択しながら創作する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【構成】 反復、変化、対照を理解し、リズムパターンを並べる (4分の4拍子8小節)</p> <p>【音色】 音素材のバリエーションを増やし、選択する</p> <p>【テクスチュア(重ね方)】 音の重なり方による効果を理解し、選択する</p> </div> <p>④【その他(速度・強弱)】 イメージに合った速度や強弱を設定する</p>	<p>◎ねらいの達成につながる試行錯誤が行われるように、複数提示した学習タスクの中の、題材のねらいに焦点化した内容(構成、音色、テクスチュア)を選択制とする。</p>
<p>3 本時の創作活動を複数のペアまたはグループで共有し、学習計画を見直す。(展開②10分)</p> <p>〈共有の視点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取り組んだタスクについて ・次の時間にやるべきこと <p>S: 学習タスクの動画を参考にしたら、音色の工夫ができそうだな。</p>	<p>◎音楽をめあてに沿った学習計画の見直しができるように、共有の視点を提示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◆音素材の特徴及び音の重なり方などの構成上の特徴に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。 <観察・ワークシート(態①)></p> </div>
<p>4 本時の学びを個人で振り返る。(終末5分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〈振り返り〉 どんな感じの音楽にしたいか話し合っイメージを決めた。変化が分かるように場面を考えた。リズムパターンもつくったが、リズムパターンは学習タスクの動画を見て、どんな音を出すかによって変わってくると思った。</p> </div>	<p>○生徒が、音楽的な見方・考え方を働かせられるように、学習タスクの活用を促す。</p>

Ⅲ 第2時の学習

1 ねらい 学習タスクを基に試行錯誤しながら創作をする活動を通して、音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴について理解できるようにする。

2 展開

<p>主な学習活動 予想される児童(生徒)の反応〔S〕</p>	<p>◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ◆評価項目(観点)</p>
<p>1 前時の学習を振り返り、ペアまたはグループの学習計画を確かめ、本時のめあてを決める。(導入①5分)</p> <p>S: リズムパターンはこの時間に完成させよう。音の重ね方まで創作できるといいな。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〈めあて〉 音の特徴や重なりを感じてリズムアンサンブルをつくるために、それぞれの学習計画を基に創作活動をしよう。～イメージを音で伝える～</p> </div>	<p>◎めあての一部分を個人で決めさせることで、各自が見通しをもって取り組めるようにする。</p> <p>○めあての決定に悩む生徒がいた場合、学習タスクを視点に考えるよう助言する。</p>
<p>2 ペアまたはグループで「音の重ね方(構成・テクスチュア)」と「音色の工夫」に着目しながら、リズムアンサンブルを創作する。(展開①15分)</p>	<p>○「音の重ね方」と「音色の工夫」に着目できるように、学習タスクの中の「構成」「テクスチュア」「音色」の資料を参照することを促す。</p>

<p>S : 学習タスクにある、この動画のリズムパターンを使ってみよう。</p> <p>S : 手から足に音素材を変えると、音色が変化するのはだな。</p> <p>S : 音の重ね方と、リズムの並べ方（構成）はイメージにどう関わるのかな。</p>	
<p>3 複数のグループで中間発表を行い、学習計画や学習内容を見直す。 (展開②10分)</p> <p>S : 他のペアまたはグループの音色の工夫を参考にしたいな。</p> <p>S : 音の重ね方の学習に進みたいな。その時にあのグループの音の重ね方が参考になりそうだな。</p>	<p>◎生徒が、曲想と音楽を形づくっている要素の関連や要素同士の働きの関わりに気づき、学習タスクを行き来しながら試行錯誤できるように、対話の視点を提示し、創作表現の再検討を促す。</p>
<p>4 学習計画や学習内容の見直しを基に、創作を再開する。 (展開③15分)</p> <p>S : 別のペアの使った音素材も試してみたいな。</p> <p>S : 重ね方をもっと工夫しよう。</p>	<p>○フィードバックを基に試行錯誤を活性化させ、表現の質を高められるように、具体的な改善について検討を促す問い掛けをする。</p> <p>◆音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴について理解している。〈観察・ワークシート（知①）〉</p>
<p>5 本時の学びを振り返る。 (終末5分)</p> <p><振り返り> リズムパターンが決まったので、音の重ね方や音色を考えた。まだイメージに合っていないところがあるので、次の時間に直していきたい。</p>	<p>◎次時がまとめであることを伝え、学習計画を見直すよう促す。</p>

IV 第3時の学習

1 **ねらい** 試行ブースを活用してリズムアンサンブルを完成させる活動を通して、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、まとまりのある創作表現を創意工夫できるようにする。

2 展開

<p>主な学習活動 予想される児童(生徒)の反応〔S〕</p>	<p>◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ◆評価項目（観点）</p>
<p>1 試行ブースの活用（各ブースの学習活動）を把握し、本時のめあてをつかむ。 (導入①5分)</p>	<p>◎生徒が試行ブースを活用して音の重ね方や音色の工夫を具体的に構想し、次の表現の工夫につなげられるように、音の重ね方ブースの構成案や音色ブースの音色のパターンをワークシートに整理して掲示・共有する。</p>
<p><めあて> 音の特徴や重なりを感じてリズムアンサンブルを完成させよう。～イメージを音で伝える～</p>	
<p>2 ペア計画表を活用し、活動の順序や時間配分について話し合い、学習の進め方を計画する。 (導入②5分)</p> <p>S : 他のペアまたはグループは、どんな音色の工夫をしているのか、参考にしたいな。</p> <p>S : ブースで音の重ね方を参考にしたいな。</p>	<p>◎学びの見通しをもち、調整ができるように、ペア計画表を活用し、音楽を形づくっている要素やその働きの視点から学習状況を振り返りながら、活動の順序や時間配分を決定するよう促す。</p>

<p>3 各ブースの課題に取り組み、試行錯誤しながらリズムアンサンブルを創作する。 (展開 30 分)</p> <p>【重ね方ブース】(構成・テクスチャ) ワークシートにリズムパターンを表す付箋を用いて構成案を作成・修正する。 S: 繰り返すとまとまりが出る。 S: このペアの重ね方はおもしろいな。自分たちの曲に使うと、どんなイメージになるのかな。</p> <p>【音色ブース】(音色) リズムパターンを一つ選び、身体や身の回りのものによる音色を割り振り、その音色で表したイメージを書く。 S: 足音よりも、机の音の方が鋭い感じが出る。 このアイディアを使ってみたいな。</p> <p>【お試し・録画ブース】 演奏を録画し、映像を見ながら音の重なり方や音色の効果を確かめ、気付いた点を基に修正する。 S: 足音があまり聞こえない。どのように演奏したら、足音を強調できるかな。</p>	<p>◎音の重なりブースや音色ブースでは、生徒が作成した構成案や音色のパターンを掲示・共有し、他のペアまたはグループの試行を手掛かりに見方・考え方を働かせた試行錯誤が進むようにする。</p> <p>◎音楽的な見方・考え方を働かせた見直しが行われるよう、「お試し・録画ブース」を活用して演奏を録画し、その映像を基に表現を捉え直す機会を設定する。</p> <p>◆創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けている。 <観察・掲示物(知②)></p>
<p>4 作成した演奏動画を完成させる。 (終末①5分)</p> <p>S: (動画を見て、) もっとよくなりそうだな。 音素材を変更してみたらどうだろう。</p>	<p>◆音色、リズムテクスチャ、構成、を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、まとまりのある創作表現を創意工夫している。 <観察・掲示物・提出動画(思①)></p>
<p>5 本題材の学びを振り返る。(終末②5分)</p> <p><振り返り> 録画をして見直すと、どこを直せばいいか分かった。他のペアの構成案を見て参考にした。足音よりも、机をペンでたたいた方が鋭い音が出たが、賑やかさを表現したかったので、足音を選んだ。重ね方は、交互に違うリズムパターンを演奏し、同時に同じリズムパターンを演奏すると、物語が終わったような感じがした。イメージに近づくように仕上げることができた。</p>	

・ペア計画表（第3時に使用）

今日の計画表（ペアで1枚）

（

）ペア

説明5分	
【音色】 どんな音を使うか （ ）分	【構成・テクスチャ】 リズムをどう重ねるか （ ）分
お試しタイム・録画 （ ）分	
提出・振り返り10分 ※提出は【学習タスク】	

・教室レイアウト（3時間目 ブース）

